

火山灰土の乳剤による安定処理

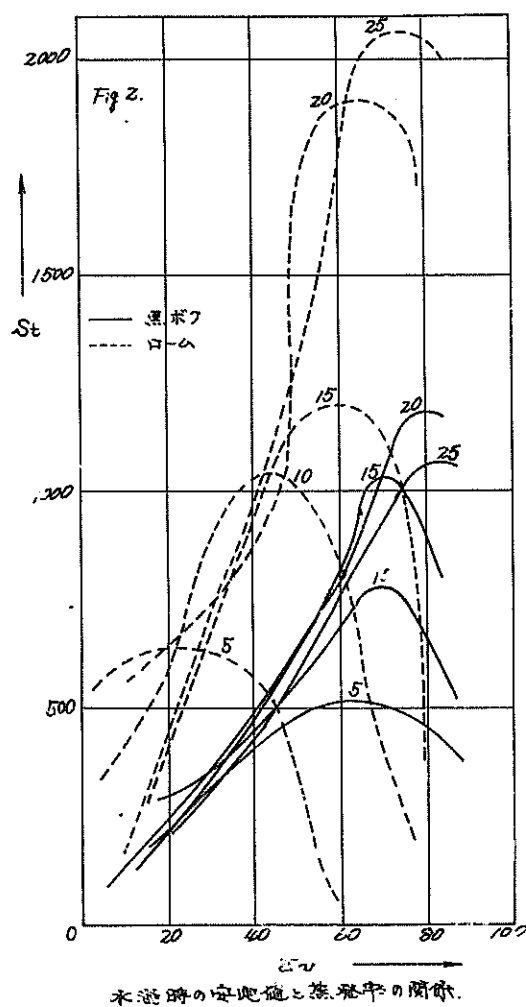
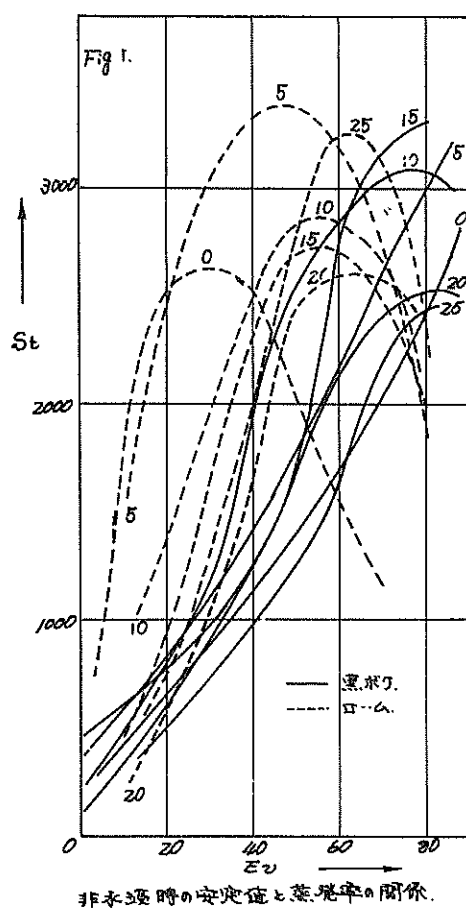
松江高専 正会員 鈴鹿和央

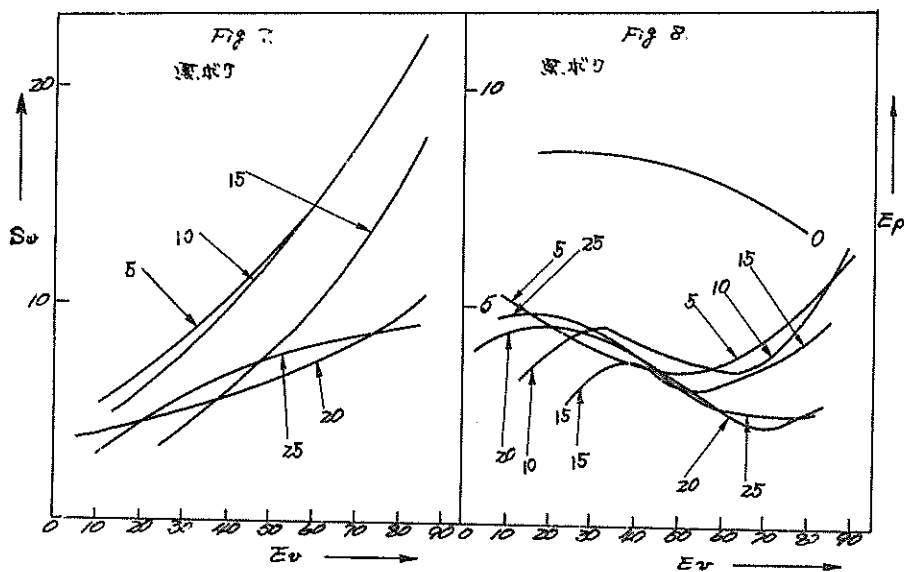
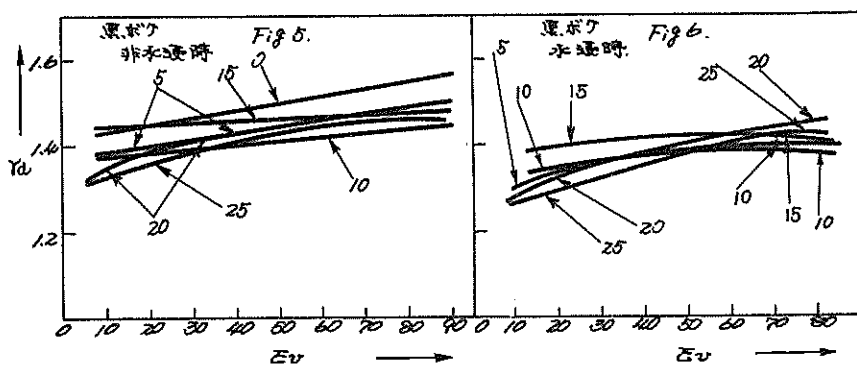
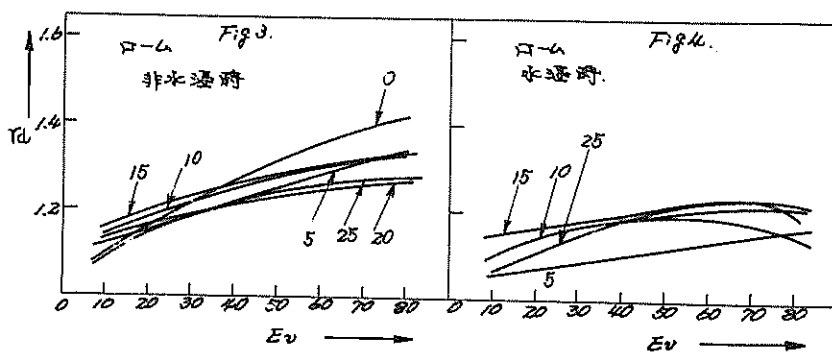
松江高専 正会員 小島 肇

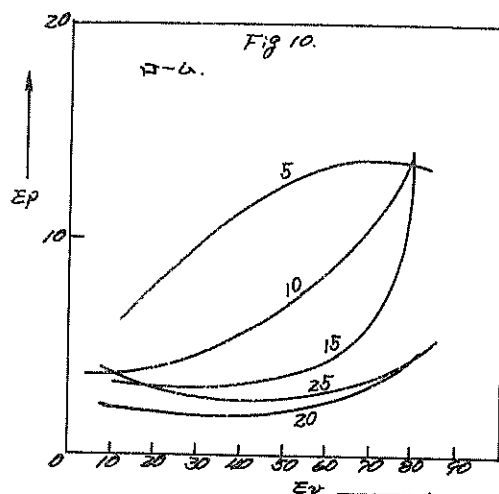
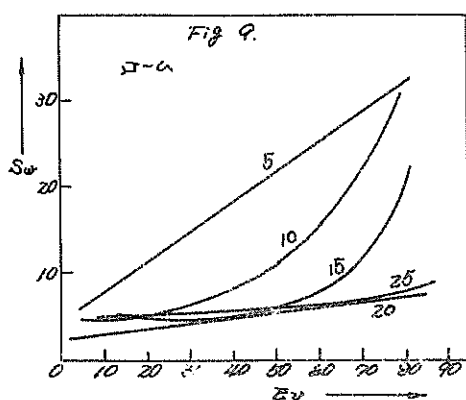
○ 松江高専 正会員 安部 一郎

1. まえがき

ローム・黒ボリという火山灰土壌をどのような方法で安定処理するかということは、関東ロームで問題となつてゐるうちに、多くのむづかしい問題をもつてゐる。以前にこれらの土をセメント・石灰で処理する場合のその効果について述べたが、今回は乳剤によつて処理する場合の混合土の性状を







び乳剤混入量にかかわるいくつかの結果について報告したい。

結果及び結論

結果についてはFig 1~Fig 12を参照していただき、結論を言及すれば、

1. 乳剤混入土の非水浸強度はかなり高いが水浸時強度の低下が大きい。
2. 乳剤混入土の水浸時における膨張・吸水量はかなり乳剤混入量の増加とともに低下する。
3. 突固め効果は、乳剤混入に伴って低下する。
4. 乳剤混入量Fig 12に示す通りであり、水浸時には非水浸時より多量必要となる。
5. 乳剤混入量が多くなるほど、各乳剤混入量における安定値の最大を得るに水浸前に高い蒸発率が必要である。(1970.6.8)

